

第63回 札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集

# どさんこ



刑務所の受刑者や少年院の在院者は、施設の中で外部の専門家の方々のご協力を得て、クラブ活動や矯正教育の時間に絵画や書道、短歌などの作品づくりに取り組んでおり、これらの作品を対象として年に1回、コンクールを行っています。コンクールでは、各分野で活躍される専門家に審査をしていただいております。その結果、入賞した優秀作品を紹介します。

作品をとおして、彼らのことを知っていただくきっかけになれば幸いです。

美術部門 P1

書道部門 P5

ペン書道部門 P7

文芸部門 P9

# 美術部門

## 写生画 第一席

『故郷』

旭川刑務所 A・Y

時間をかけて、一筆一筆、画面全体を仕上げた努力が感じられます。細かな筆のタッチを生かし、多彩な色彩で細部まで仕上げている、高い描写技術を感じます。大きな構図と共に、色彩の変化と筆のタッチで遠近感も表現されています。



## 写生画 第二席

『秋嵐』

旭川刑務所 I・Y

細かな筆のタッチで、ていねいに仕上げられ、一筆一筆に込めた絵を描く努力が伝わってきます。もう少し色彩の強弱やめりはりが表現されていると一層良い作品になったと思われると思います。絵を描く技術が充分にありますので、違った題材にも挑戦してみたいかがでしょう。



## 写生画 第三席

『紅葉』

函館少年刑務所 T・S

明るいピンク色と黄色、そしてグリーン系の柔らかな色彩で画面一杯に彩りし、絵全体に調和しています。また、色彩による遠近感も表現されています。柔らかな筆のタッチで、穏やかな雰囲気も伝わってくる作品です。



## 自由画 第一席

模写の作品と思われるが、力強い画面構成と重厚な色彩が見る人を引き付けます。単なる模写にとどまらず、絵画作品として充分に描かれた力作です。色彩に厚みがあり、配色の効果でより力強い作品となっています。

『九紋龍 史進』

月形刑務所 N・S



## 自由画 第二席

色鮮やかな画面は見る人を引き付ける魅力があります。明るい色彩や人物と背景の桜の花による構成により、新鮮な感じやさわやかさを感じます。また、日本画風の表現も新鮮で、絵の魅力を一層深めています。

『桜舞』

札幌刑務所 K・M



## 自由画 第三席

『牛乳を注ぐ女』  
札幌刑務所 K・S  
オランダの画家フェルメールの代表作の一点である「牛乳を注ぐ女」を模写した作品で、原画を忠実に模写し、色彩の再現は見事です。壁の灰色から白へのグラデーションや、壁のシミ、釘穴まで明確に描き、名画の模写が多い作品の中でも、特に優れています。





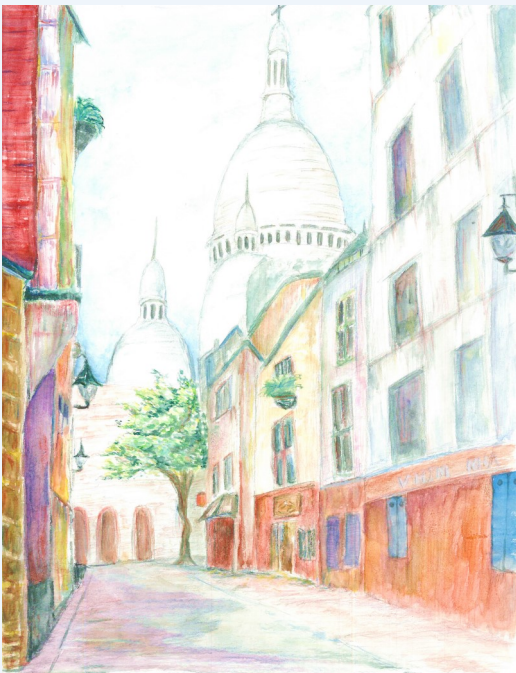
写生画 佳作

『山中の稲荷神社』 函館少年刑務所 U・N



写生画 佳作

『夕景』 函館少年刑務所 T・K



写生画 佳作

『モナルトル』 函館少年刑務所 M・K



自由画 佳作

『水滸伝 入雲龍公孫勝』 月形刑務所 N・M



自由画 佳作

『傑刑図』 月形刑務所 W・S



自由画 佳作

『愛染明王』 月形刑務所 E・N

絵画 佳作

『孔雀』帯広少年院 S・S



絵画 佳作

『静物画』北海少年院 O・A



入賞作品展(成人の絵画)の様子

### 総評

#### 【写生画】（成人の部）

自然から受けた感動を、自分なりの方法で絵に表現することが大切であると、写生画では言われています。新鮮な視点と絵を描く技術力も求められませんが、また、マンネリになることも避けなければなりません。このような観点で審査しました。入賞した作品は点描で描いた作品が多くなりましたが、描く技術力と努力を強く感じた作品です。大胆な筆使いのユニークな作品や多彩な色彩で表現した作品、新鮮な視点が感じられる作品が出品されることを期待しています。

#### 【自由画】（成人の部）

自由画の部門は、何を描いても自由ですが、応募された作品の多くが模写による作品でした。模写は、原画を表面的にそのまま写し取るだけでなく、一枚の絵として魅力ある表現をすることが大切です。

入賞した作品は、絵を描く技術はもちろんですが、色彩の強さや新鮮さにより、絵に力強さがあり、観る人に感動を与える絵、という観点から審査しました。

#### 【絵画】（少年の部）

応募作品数が少ないこともあり、今回は残念ながら、入賞作品に該当する作品がありませんでした。

心情的にも美しいものを追求する心を育てるには、絵を描くことも大切と思われます。次回の出品を期待しています。

# 書道部門

## 書道（成人の部）第一席

『北海王元詳造像記』

札幌刑務所 B・R

力強く気力充実した造像記です。たっぷりの墨量で点画の間合いを勢いよく書き続ける技は見事です。ただ、筆勢のあまり、落款（書名）が無く、惜しいです。

胡風起截耳之凍趙  
日興暴背之思  
弥山書

『胡風起截耳之凍趙日興暴背之思』 旭川刑務所 S・T

二行の構成がよく整理されて、温もりある楷書作品です。落款の位置も上々。今後、更に楷書ならではの用筆法（止め、撥ね、払い）を習いましょう。

## 書道（成人の部）第二席

使持節司空公長樂  
王丘穆陵亮夫人  
滴月臨

## 書道（成人の部）第三席

『牛櫛造像記』

月形刑務所 K・K

引きしまった線が終始一貫し、気迫に満ちた作品です。石を刻むかの強靱な線が響き、悠久の古代へと情がつながります。

太妃還家伊川立類  
母子平安造弥勒

# 水遠山長

書道  
(少年の部)  
第一席

『水遠山長』

帯広少年院 Y・K

広大な大地の景色を見るかのように堂々とした一作です。伸びやかな線に心満たされます。四字の調和した優作です。

# 我思古人

書道 (少年の部) 第二席

『我思故人』

帯広少年院 S・M

この一作に込める意志の強さが伝わってきます。「思」の一文字に漲る筆力が充分で、全体を一段と輝かせています。

書道  
(少年の部)  
第三席

# 千山万水

『千山万水』

北海少年院 K・T

円みある線がゆったり流れ豊かな自然を感じます。温かく穏やかな作品です。

総評

【書道 (成人の部)】

言葉に感動し、どのように仕上げようかと書体(楷、行、草、篆、隸)や、書法(技法)に構成にと、いく枚も書いたであろう作品に出会うと楽しい会話ができ、盛り上がります。最終の一点一画まで気が通っていると「頑張った賞」を、また、ここが良いのに、この一点が残念な作には「もう一歩賞」等々と、真摯な作品と対峙させていただきました。

ところで、書は筆を使いますネ。古い言葉で「使ふ」と「仕ふ」は同じ語で、「筆を使う」とは「筆に仕える」ことで、「付き合う」ことであります。筆がどう動きたいかを聴き、自分の手と対話してみましよう。次回作を期待いたします。

【書道 (少年の部)】

今年作品数が少なく、順位を決めるのは大変難しく苦心いたしました。一作一作に見どころがあり、どの作品も純真で素朴で温もりのある作品ばかりです。唯に基礎練習不足のため力を発揮できていないことも残念に思います。土台の不安定な上に家を建てるような冒険はしませんよね。基礎力を磨きつつ、これからも四文字熟語が題材になりましよう。その言外の意を十分に噛み締めて、明るく元気に、新鮮な作品を書いてください。



入賞作品展(書道)の様子

ペン書道  
(成人の部)  
第一席

『性霊集』の『  
函館少年刑務所 T・S  
写仏は顔の表現が命です。一本一本の線に強弱が出ていて、とても良い表情です。思わず息を止めたくなるくらいです。』



びは  
香りま  
体は  
花りま  
人々  
時々

ペン書道  
部門

ペン書道 (成人の部) 第二席

『ドイツ民謡』  
札幌刑務支所 S・Y  
用紙全体に安定よく納めました。文字の大きさが読み易い作品になりました。変体仮名を効果的に使い、より良い表現となりました。』

声に出して  
読みたい  
日本語

ペン書道 (成人の部)  
第三席

『声に出して読みたい日本語』  
函館少年刑務所 K・T  
双鉤填墨(そうこうてんぼく)とは、複製を作る技術で、文字の輪郭を写し、その中を墨で塗りつぶすこと。正確に丁寧に写し取っています。』

泉にそいでしげき菩提樹  
慕いゆきそてらうり夢ろ  
玲はよりわゆる言葉  
うれ悲しきその影



## ペン書道（少年の部）第二席

『吾輩は猫である』

北海少年院

S・H

作品として飾って見て、読んでみようと思わせるものでなければならぬ。  
丁寧で文字の大きさが良かった。

吾輩は猫である。名前はまだ無い。  
どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。

## ペン書道（少年の部）第三席

『ヒンズー教の教え』

帯広少年院

Y・K

同じ文字が繰り返し使われるため、難しい表現になるが、整然と書かれている。字形はかなりの癖字なので、よく活字を見て書くこと。

心が変われば  
態度が変わる  
態度が変われば  
行動が変わる  
行動が変われば  
習慣が変わる  
習慣が変われば  
人格が変わる  
人格が変われば  
運命が変わる



入賞作品展(ペン書道)の様子

総評

【ペン書道（成人の部）】

選出された作品は、工夫があり、努力が見られます。ペン書道とは、ペンで書くものですが、今ではいろいろな筆記具が販売されていて、使い方によって、多様な表現効果が出ます。特に、展覧会のような場合は、目を惹く作品に走ってしましますが、基本は常に読み易く、体裁よく心がけ、誤字や脱字を注意して書くことです。

今回佳作に回ってしまった中には、構成に工夫を必要とするものがありました。文字は立派ですから、残念です。

【ペン書道（少年の部）】

出品数が少なくて残念ではありますが、作品はどれもしっかり書かれていて嬉しくもあります。手書き文字が少なく、全部がパソコンで打たれた文字だけにならないよう、簡単にすぐ書けることを忘れずに言いたい。

※少年の部 第一席は該当なし

短歌  
(成人の部・少年の部)

成人の部

第一席

陽の当たる床に一步を踏み出せば  
足の甲にも春の温もり

旭川刑務所 Y・H

第二席

廃校の庭に並んだ桜木が  
今年も咲いたと姉の便りに

札幌刑務所 I・T

第三席

夕方のニュースが告げる感染者  
わが故郷の数字を日々追う

函館少年刑務所 T・H

第一席 季節は春、北国では長い冬ののちにやってくる日差しが春めいてくると心にも希望が満ちてくる。陽の当たる方へ歩めば、陽の光は足の甲にも当たり、おのずと温めてくれる。心も光ある方へ歩めば、その光が心に温もりを与えてくれる。

第二席 お姉さんからの便りの内容が簡潔に詠われている。廃校はかつて作者が通っていた学校であろうか。寂しくなってしまう学校の庭に、自然の摂理の中で変わることなく桜の花は咲いている。その様子を感慨深く浮かべている、しみじみとした歌である。

第三席 新型コロナウイルスが大流行して、感染者の数が毎日ニュースで報じられる。気になるのは、故郷の感染者の人数。縁のある地域の感染者数に目が行くのはとても良く分かる。コロナウイルス大流行という社会の状況を自分に引き付けて、故郷を思う気持ちが素直に詠われている。

少年の部

第一席

どん底の真つ暗闇から垣間見た  
一縷の光は家族の笑顔

北海少年院 Y・S

第二席

故郷で過ごした時と潮の香を  
思い出してはただいとおしむ

北海少年院 S・Y

第三席

該当なし

第一席 自分の今の境遇はどん底の真つ暗闇かもしれない。しかし、どんな闇も開けるし、闇の中にあっても必ず光は射している。作者にとつての一縷の光は家族の笑顔であることが素直に詠われている。家族の笑顔に支えられて、これから光ある道を行けるだろう。

第二席 故郷を思うと潮の香りも思い出される。故郷を懐かしみ大切な場所であることが伝わってくる。宝物のように思える故郷があるのは幸せなこと。今は辛いかもしれないが、故郷をいとおしみ、そして思い出すことで、これから先を歩んでいく力が得られると思う。

総評

【短歌（成人の部）】  
すばらしい作品が並んでおり、選歌がとても大変でした。どの作品からも心の声が聞こえてきます。家族を思う歌、自らの来し方を省みる歌。今の境遇にあるがゆえに生まれた歌。その中で、その日常の暮らしの中からも、自分の暮らしだけではなく、広く社会や移り変わる自然に目を向けていることが感じられました。短歌を作ることで、自分自身を客観的に見つめることができるとし、また、辛さから救われるときもありました。難しい言葉を使う必要はありませんので、自分の心を、自分の言葉で三十一文字という定型の中に表現してみてください。定型であることが表現を助けてくれますし、今でなくては表せない心の軌跡を残すことができます。

【短歌（少年の部）】  
若者たちの間では「ツイッター短歌」が流行り、ネット上には短歌を投稿できるサイトが登場し、形式にとられない自由な作品が多いとのこと。短歌という古典をイメージするかもしれませんが、意外に三十一文字という定型に助けられて、身近なことを口頭使っている言葉で自由に詠っていくことができます。今年の作品にも、家族のことを思い、自分の気持ちをそのまま素直に表現している作品が見受けられました。時には辛くて夢の中に羽ばたきたくなるという気持ちも伝わってきました。若いときから触れていると、短歌はずっと心の友として寄り添ってくれると思います。そして、若い時でなければ作れない短歌もあります。五句三十一文字の中に、是非自分の言葉で自分の心を表現してみてください。

# 俳句

## (成人の部・少年の部)

### 成人の部

#### 第一席

大空に一礼をして初詣

札幌刑務所 K・Y

#### 第二席

草<sup>むし</sup>筆る指に知らない虫が来て

網走刑務所 W・K

#### 第三席

十六夜<sup>いせよい</sup>やちらりとのぞく腕時計

函館少年刑務所 K・Y

第一席 なんと清々しい句だろうか!!大空に一礼であるので、神域に入る前、鳥居を潜ったところであろう。手水舎で身を清め神殿へ進むまでの姿が見える。コロナ禍の早く治まることを祈りたい。

第二席 雑草が次々と伸びる。大きな田畑で無く、手で筆る庭うちの作業だ。暑さを凌ぎ乍ら嫌いな虫にも耐えて頑張る姿。

第三席 一日違いの満月から過ぎた時間が気になるのだろうか。知られない様に腕時計を覗き見る。次の予定があるのか?それ程の風流人でもないのか?

### 少年の部

#### 第一席

言うほどに遅くはないな

かたつむり

帯広少年院 K・R

#### 第二席

めいっこのランドセル見て

もう春かい

北海少年院 M・G

#### 第三席

懐かしき

お風呂上がり<sup>てんかふん</sup>の天瓜粉

帯広少年院 K・R

第一席 でんでん虫の意外と早い移動を詠む。反省を含め、自身と比べているのかも知れない。

第二席 姪っ子が早くも一年生となる。ランドセルは自分からの贈物かも知れない。「光陰矢の如し」姪っ子に向ける優しい思いやり。

第三席 子供の頃はよく天瓜粉を振っていた。自分は男なので、見るだけであったが、母も妹も天瓜粉をつけていたのを懐かしむ。

#### 総評

#### 【俳句(成人の部)】

平凡な生活を詠む句に佳句が見られたことは好ましく思った。何時も云うことだが、勤めを終え、世間に出てからも自慢出来る様な作品を詠んで欲しい。獄窓とか獄塀の入った作品はあえて採らなかつた。

#### 【俳句(少年の部)】

出品者と作品数が少なく同作者を選ばざるを得なかつた。各施設でもっと協力して欲しい。



入賞作品展(短歌・俳句)の様子

# 詩

## (成人の部・少年の部)

### 第一席 (成人の部)

「花の一生」

札幌刑務支所 S・Y

花を愛した母の供養のため生花を購入した偶然にも今月は母が一番好きだった ゆりの花でした

殺風景な部屋に色を添え 湿気臭さまで吸収してくれるかのように香りを放ち 心地良く私を迎え待っていてくれるように癒されます 病床生活が長く、人との触れ合いも少なくなつた母が 花に水をやりながら 話しかけていた気持ちが痛い程伝わって来て いつしか私も花との対話を楽しんでる

居室に届いた時蕾だったのが 丁度母の命日の朝開き始め 僅かな明かりの中で やつと夕方迄に全開して それはそれは感動的な瞬間でした

一つの花をこんなにもじっくりと観察したのも初めてで 見て喜び 香りに救われ 育てる張りにもなって 動き変化の少ない生活の中で 命あるものがあると こんなにも心を和ませてくれるものか…

花から生命力 気持ち一杯の喜び 安らぎ潤いを頂きました

その後ちよつとずつ散って 今は萎れかかった花弁一つと 陽が当たらないので茶に染まった葉が やつと付いているという様相ですが 床上のバケツの中で育まれ どんな状況 状態の中でもゆりはゆりの尊厳を持って 気高く花開かせ 美しく精一杯咲き誇り 健気に散っていく その姿に 力強く生き抜く事の尊さを教えられました…私もこのようでありたい!

それ迄の精神には程遠い自分ですが、縁があつて私の部屋で見事に咲き 散っていった一輪の花

限られた命の時間を 一時でも共に過ごし 生きるエネルギー 指針まで与えてくれたかのように 母の姿と重なって 私の心の中に 住み続けています

その存在を追うように 焦らず 自然に委ねゆつたりと生きて行こう！  
優しく見守る母の愛を感じながら…

目を楽しませてくれるものとして限られている自室に、久しぶりに新しいゆりの花を飾った。それは愛する母の好きな花でした。花を觀賞することをとおして自身の胸中に去来する思いの一つ一つを大切にしてください。お母様のためにも。

### 第二席 (成人の部)

「幸福」

旭川刑務所 K・K

夢もなく、希望もない暗闇を

ただ、がむしやりに走ってきた

未来の光が全く差さぬ この世界で

何をどうしたら良いのだろうか

「頑張れば幸福になれるよ」

無責任な上つ面の言葉をかけるのは

もうやめてくれ

幸福ってやつは一体何なんだ

頼むから教えてくれ

何もせず、ただ他人を蔑んでる奴等よ

それが幸福か

他人にいつも胡麻播ってばかりの奴等よ

それが幸福か

虎の威を借りて満足してる奴等よ

それが幸福か

感情的に吼えまくってる奴等よ

それが幸福か

陰でコソコソ動き回る奴等よ

それが幸福か

過去にしがみついている奴等よ

それが幸福か

それが本当の幸福って思ってるのなら

下らないから

もう構わないでくれ

俺は生まれ変わるって決めたんだ  
古い価値観はもういらぬ  
他人の価値観はもういらぬ  
これから俺の幸福ってやつを  
築いていかなきゃないんだからな

幸福という言葉ほど現代人にとって魅力あふれる言葉はないくらいです。が、しかし、私の求める幸福は人様からのいたたきものではない。自身の力でそれを求め、幸福に浸りたいとするあなた。そこに新しい決意を感じました。

### 第三席 (成人の部)

「母さんへ」

函館少年刑務所 H・M

小さい頃はいつも手を引いてもらっていたのにいつの間にかその手を拒み避けてきた。「産んでくれなんて頼んでない。子供は親を選べない。」勢い余つて言つてはいけない言葉であなただを何度も傷付けた。家族の期待に答えられなかった俺は家族にも差別やイジメを受けて来て自分の居場所なんてどこにも無くて毎日が辛くて苦しくて地獄でしかなかった。そんな俺を助けてくれなかつたみんなをずっと恨んで復讐の為にみんなを裏切り、傷付けて来たのにあなたは見捨てずに居てくれた。その度に俺は自分を責め、自分ごとことん駄目な人間だと痛感させられ自暴自棄になって俺は自分の改善更生を諦めてしまった。本当にごめんね。バカな息子で。けど今なら分かる。俺がどれだけあなたに愛され、救われて来たのが。人のせい

にしてずつと逃げて来たけど「自分なんかどうせ駄目だ」と思い込んでしまつた自分の弱さが今の駄目な俺を作つてしまつたんだよ。よく気が付いたんだ。こんな簡単な事にも気が付かず苦しませてごめんさい。本当は親父も居なくて精神的にも肉体的にもすごくしんどいはずなのに絶えず笑顔を見せてくれる。そんなあなたの優しさや強さを心から尊敬してるし感謝してもしきれない。あれからずつと言えなかつたけど俺はあなたの子供で本当に良かった。一生かけても恩返しはできないかもしれないけどあなたや自分の幸せの為に必ず立ち直つてみせるよ。俺を産んでくれてありがとう。

様々なことで期待を裏切り、お母様を傷付けてしまった。弱い自分、駄目な自分。今に至り、ようやく純化された自分の姿を知ることができるようになりました。その気持ちは読み手にも伝わってきます。お母様への立派なメッセージですね。

### 第一席 (少年の部)

「父さん」

帯広少年院 S・S

昔から厳しくて

何かあるとすぐに怒る

そんな父さんが嫌いだつた。

そんな父さんが言った

「お前は父さんの子じゃない」

あの時の一言が今まで忘れられなかつた。

どんな気持ちで言ったのか

いくら考えても分からない。

あれから時は経ち

三年前父さんが倒れた時

「あいつは元気でやっているのか？」

あいつは俺の子だから  
バカだけどかわいかった  
死ぬまでにもう一度会いたいな」  
そんな言葉を母から聞いた。  
一生忘れることのできない言葉。  
本当に嬉しかった。  
初めて父さんのことで涙を流した。  
あの日から、今でもずっと  
あの言葉と父さんは  
僕の一生の宝物

「父さん  
ありがとう」

作者の真つ直ぐな思いが伝わってきます。かつて父の一言で思い悩んだこと、母から聞いた3年前の病床の父の言葉が宝物になったこと。親と子の深いところで交流の記憶はこれからの自分を支えるかけがえのない宝です。

## 第二席 (少年の部)

「母さんの子」

北海少年院 H・H

誰でもいいから 僕を必要として欲しかった  
何でもいいから 僕の「役割」が欲しかった  
世界中の誰にも求められていない気がして  
世界中から「いらない」って 言われている気がして

必死で自分の「役割」を探した  
必死で僕の生きる場所を探した  
気がついたら 僕は東京にいた  
そして また気がついたら 鉄格子の中にいた  
僕は「使い捨て」だったんだ  
でも 嬉しかった

「君はセンスあるよ」  
「君さえいれば」

そんな事 今まで誰も言ってくれなかった  
夢のようだった  
「僕はここにいていいんだ」  
「僕も生きていていいんだ」  
心からそう思えた

だから頑張った  
その人たちのために頑張ったのに  
でも 僕は気づいた  
「必要とされたい」  
「必要とされる人間」になろうと  
何一つ努力していなかった

でも そんな ありのままの僕を  
母は 必要としてくれた

最初から 生まれた時から いや 生まれ  
る前から 必要とされていたんだ

僕は「受け子」だった  
でも「母さんの子」だったんだ

大切なことに気づけた  
僕は 世界に一人しかないんだ  
母がくれたこの命は 世界にたった一つし  
かないんだ

今までのような  
自信のない 弱い自分から抜け出し  
社会から求められる人に  
大切な人を幸せにできる人に  
誰も犠牲にせず 人の役に立てる 強く優  
しい人に  
そして  
母に恩返しができる 立派な大人に  
僕は なりたい

心の奥に秘めていた思い、過ちの重さを冷静に受け止める心が見事に描かれています。生まれたときから自分の全てを受け入れ、大切に考えてくれる母の愛情と優しさ。何があるうと自分を迷わず前に進める意思と準備が整いました。

## 第三席 (少年の部)

「裸足」

紫明女子学院 W・M

夜にかかるカーテンは  
終わりのない迷路を写していた  
頭の上をよこぎる雲には  
いつだってはかない夢をみる  
本当に求めるものは  
いつだって心から消えかかる

裸足でもっと立って  
自分はこじやないって  
話をもっと聞いて  
前世も厭わないって  
裸足でもっと立って  
話をもっと聞いて  
そうだろ そうなの

内面からほとぼる思いが感じられます。過去、現在、過ぎた夢、本当の居場所は、など頭の中を火花のように思いが走りまわります。それが一つの魅力的な表現となり、結論しました。自分らしさであり、自分の中から湧き出る生きる力です。地に足を着けて自分の存在が歌われています。

総評

【詩(成人の部)】

今年の夏は暑さも格別。そんな中で、原稿用紙に向かって姿を想像しながら読みました。

このころ言葉を結んで生まれたものが、詩であるとするならば、それは全く自分だけに宿る、唯一自分だけの営みと言っても過言ではありません。この営みを大切にしてください。凝縮した言葉を自在に使っての自己表現。それは詩創作の原点です。今後とも続けてください。

【詩(少年の部)】

各作品から、作者の個性と思いが心に響いてきました。思いが、飾りを落とし、素直で大胆な表現を得て、心に訴えてきました。作品の奥にある声に、耳を澄ませずにはいられません。良い作品に出会えた喜びを覚えました。

個性とは、一人一人のこれまでの歩み、物語の中にあるのでしょうか。ある日本の作家が、インタビューに答えて「自分が作品を書くのは人とつながりたいからだ。」と述べていました。

研ぎ澄まされた言葉は、深いところで人の懐に飛び込み、意図せずとも共感を得るのだと思います。言葉が研ぎ澄まされるためには、自分と向き合うこと、世界の何かとつながること、その両方が必要です。

自分と向き合い、言葉と向き合うことはどちらも苦しいことです。しかし、詩を書く行為は、緊張感の一方で、自分を解放させる力があります。詩を書くことが楽しいならば、大いに書くべきです。書くうちに、普段隠れていた自分が、正直な自分の思いや願い、あるいは祈りが、表現を得て、純粹な姿でそこに現れます。自分が納得する表現を得るために、言葉を選び、探す営みは、苦しい作業かもしれませんが、しかし、生まれ出た作品は、実にかわいいものです。

詩を書く行為、書きたいという思いそのものが、一つのかげがえのない個性です。詩を書くことを楽しみ、書くことで新しい自分を見つけることができるならば、未来の自分を支える確かな手段であると考えます。

## 随筆（成人の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	札幌拘置支所 I・Y	贖罪（食材）	苦行を通して、真理を得ようと努めた釈迦は、村の娘 スジャータの献げる乳粥の供養を受け、やがて悟りの座へ向かったとされています。毎日、同胞に食事を供する仕事はご苦労なことも多々あるかと思いますが、私たちの生活はここから始まるのですね。お母様と食卓を共にする場面を想像しています。
第二席	網走刑務所 Y・K	たんぼぼが先生	春の到来を真っ先に知らせる草花。それは福寿草であり、菊の花にも似たたんぼぼですね。飽かず眺め見ているうちに、美しさは勿論、花の生命力、強さにいたく感動。花に寄せる謝念の気持ちがいっしょに述べられています。
第三席	札幌刑務支所 S・Y	誤ちは、もう再び	あなたの文章を読み、私は正直つらかった。言葉を探すのに苦労しました。・・・そこで、大好きだった父君を幼い頃目の前で亡くされた後、修道女の道を歩まれた渡辺和子さんの言葉を用意しました。「挫折のない人生はない、挫折は自分を考え直すチャンスだ」と。あなただけの道を着実に歩まれることを願っております。
<p>今年の夏は、暑さも格別、いまだに収束をみないコロナのこともあり、そんな中で原稿用紙に向かっている姿を想像しながら読みました。</p> <p>率直に申しますと、個々各々の作品の水準が高くなっているとの印象を持ちました。具体的に申しますと、構成・組立てにそれを感じます。また、叙述過程では、情景描写に自身の心情を加えて内容を膨らませる等、表現技術に工夫がみられ、内容が豊かになっているとの印象を持ちました。</p>			

## 読書感想文（成人の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	札幌刑務支所 I・C	『白い巨塔』	この小説に描かれている登場人物のイメージは実に様々です。大学病院を舞台に、医学部教授たちの野望を中心に、医学界の病巣を鋭く描いたこの作品は、小説界から、そして一時は映画やテレビにも取り上げられました。人物一人一人を読み取り、得た感想が巧みな筆致で記述されています。
第二席	函館少年刑務所 Y・E	『奇跡のリンゴ』 を読んで	これからの時代はパソコンやデジタル等、電子機能が一層進歩し、それに依存することも、より盛んになっていくでしょう。しかし、土からの成果、収穫物を楽しむ農業において、それはどうでしょう。リンゴ農家の姿を紹介しながら、あなた自ら、改めて農業に携わろうとする強い決意が伝わってきます。
第三席	札幌刑務支所 H・A	『女たちの シベリア抑留』	今次大戦では、60万余の旧日本軍兵士等がシベリアに抑留されました。その中に女性の人達もいたこと、酷寒の地で筆舌に尽くし難いご苦労をされた実態など、ほとんど知らされてはいません。その実態を知り、広く関心を持ってほしいと取り上げたあなたに謝意を申し述べたい。
<p>この分野の基本は、申すまでもなく本です。手にした本を読んで、その本の感想を書くということです。しかし、どんな本でも感想文が書けるかという、それは難しい。感想がわいてくる本、感想を書くのに向いている本ということで、内容的にも共感できる、心が広がる、心がゆすぶられる等で、選書が大切です。</p> <p>今回の応募作品の中にも、唯今のねらいに該当する文章の幾つかに接することが出来ました。</p>			

## 作文（少年の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	北海少年院 H・H	夢	担任の先生の言葉をきっかけに、じっくりと被害者の心の消えない傷を想像し、受け止めることができるようになってきた自分が表現されています。また、過ちに至った自分の心を振り返り、これからどう生きるべきかを真剣に考える姿が感じられました。これまで学んだことを自分や他の人のために生かそうとする自分、新しい自分づくりに向かっての歩みが始まりました。
第二席	北海少年院 S・K	許せないこと	被害者の心の深い傷を思いやり、やりきれない思いなど、性犯罪への率直な怒りが伝わってきます。また、犯罪の悪質さ、多様性、被害者の人生への深刻な影響など、広い視点で考察し、性犯罪の重大性を強く訴えています。広い視点からの考察が、自分の生き方を客観的に見つめ、かけがえのない自分の人生を考える大事な機会となりました。
第三席	北海少年院 S・K	マインドフルネスと 出会ってから	「マインドフルネス」との出会いと体験、自分の中の変化が、確かな実感とともに紹介されています。また、そのことでの驚きと喜びが伝わってきます。自分の内面を高め、コントロールすることで、周囲に惑わされない前向きで力強い心を備えた自分へと成長しようとする意思と手応えが感じられます。

今回の応募作品に共通していたことは、「内に向ける目」と「外に向ける目」の両方が感じられたことです。内に向ける目とは、自分を見つめる目です。外に向ける目とは、他の人の心や社会に向ける目です。これまで、この文芸コンクールでは、どちらかという、「内に向ける目」の作品が多い傾向にありました。しかし、今回は、どの作品からも両方の目が感じられました。

自分の心を見つめることも、他の人の心を想像することも、決して簡単ではありません。しかし、各作品それぞれ、深い内省をとおして、時間をかけて自分を振り返っており、その言葉からは深い後悔やお世話になった方への感謝、素直で正直な思いなどが読み取れました。また、他の人の身になって、その人の心の内側を真剣に想像している作品もありました。さらに、規則についてや今後の自分の生き方を伸び伸びと考察し、展開している作品もありました。すべて、書き手にとって、自分を磨く大切な時間であったと感じました。

作品を読みながら、「内に向ける目」と「外に向ける目」の両方が行ったり来たりすることで、自分を正確に捉え直し、自分を成長させたりできるのだと思いました。

さて、生きるとは、信じた道をひたすら進むばかりでなく、時々、その道が正しいかどうかを振り返ることが大事だと言われています。人生は、小さな選択の連続です。新しい自分づくりにおいても大切な選択をする場面が訪れます。

その時、自分を正しく見つめる目と広く人や社会を考える目、深く考える力が必要になります。「書くこと」は、もう一人の自分が今の自分を見つめることで、心と知恵と勇気を鍛えてくれる確かな方法だと考えます。



毎年冬に開催している作品展では、各部門の第一席から第三席までの入賞作品を展示します。詳細は法務省ホームページ内の「札幌矯正管区フロントページ」に掲載します。



【札幌矯正管区フロントページ】

札幌矯正管区フロントページ

検索

第63回 札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集

---

令和3年2月 発 行

編集・発行 札幌矯正管区第三部

発 行 所 札幌市東区東苗穂1-2-5-5

TEL 011(783)5063

FAX 011(780)2207

---